

雪眩
湖
真向う
余呉の村
新翠



丹生ダム広報誌

季刊 たかとき川

2001・Vol.18

発行：水資源協会

監修：高時川治水対策促進協議会
水資源開発公団丹生ダム建設所

丹生ダムからのお知らせ

丹生ダムホームページ
URLアドレス
<http://www.water.go.jp/kansai/niu>



丹生ダムのホームページをリニューアルいたしました。

インターネットをこれから始める人も、もう始めている人もぜひ、丹生ダムのホームページによってみて下さい。丹生ダムの概要や、ダム周辺の観光案内、水にまつわる民話、水に関するクイズ、ダム完成までをアニメーションで紹介したページなど、楽しいページが沢山あります。

丹生ダムホームページを見たい方は、上記のURLにアクセスしてください。また、Yahoo!等の検索エンジンで「丹生ダム」と検索すればすぐに見つけることもできます。

EVENT

余呉町
3月中旬頃まで
「ワカサギ釣り」
○場所/余呉湖(JR余呉駅より徒歩10分)
○内容/初心者の方も、釣り場の管理人にポイントを教えてもらって湖北の冬の醍醐味を満喫



木之本町
3月18日(日)
「秋葉祭り」
○場所/大字木之本
○内容/春の訪れを告げる神事(防火祈願)(御輿、もてなし等、壮大かつ厳粛に行われる)
○お問い合わせ先/木之本区長 雨森 滋 ☎0749-82-3031



高月町
3月31日(土)
「観音の里“春まつり”」
○場所/渡岸寺観音堂境内
○内容/もちつき大会、特産品の展示・販売など
○お問い合わせ先/高月町役場 ☎0749-85-6404

びわ町
2月28日(水)～3月1日(木)
「川道の“おこない”」
○場所/川道神社
○内容/毎年、各村毎に行われる神事(湖北地方特有の伝統行事)
○お問い合わせ先/川道事務所 ☎0749-72-2049

浅井町
1月10日(水)～3月11日(日)
「盆梅展」
○場所/浅井ふれあいの里・プラザふくらの森
○お問い合わせ先/浅井ふれあいの里 ☎0749-74-8282
浅井町役場 まちづくり課 ☎0749-74-3020

虎姫町
2月27日(火)
「フレッシュスプリングコンサート」
○場所/虎姫町文化ホール
○内容/ぬいぐるみたちのコンサートとパフォーマンス
○お問い合わせ先/虎姫町教育委員会 ☎0749-73-2273

長浜市
1月10日(水)～3月11日(日)
「盆梅展」
○場所/長浜市慶雲館・梅の館
○内容/巨木や古木など日本一の規模
○お問い合わせ先/長浜市商工観光課 ☎0749-62-4111

QUIZ

このコーナーでは、毎回、クイズに正解された皆さんの中から、抽選で10名様様にプレゼントをお送りしています。

今回のクイズは…
江戸時代から明治時代にかけて大阪の米相場を伝える手段として飛脚や伝書鳩もありましたが、山に登り〇を振って伝えた方法もありました。では何を振って伝えたのでしょうか？

皆さんからのたくさんのご応募をお待ちしています。
【クイズ解答のあて先】
クイズの解答は、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、下記のあて先までハガキでお送りください。また、広報誌「たかとき川」で取り扱ってほしいテーマ、ご感想などがございましたら、あわせてご記入下さい。
〒529-0522 滋賀県伊香郡余呉町坂口819
水資源開発公団 丹生ダム建設所
広報誌クイズ係

*クイズの締切は平成13年2月28日(水) 付消印まで有効です。
【たかとき川・17号】のクイズの答え《浅井柵》
前号のクイズに多数の御応募ありがとうございました。抽選の結果、下記の方が当選されました。

クイズ当選者 (応募者総数161通)
小川喜久子様 吹田育子様 茂森恭子様 弓削康子様
川崎知子様 中山政城様 宮部由和様 芳井絵里様
熊本章子様 藤居初美様

編集後記

多種多様な情報通信手段が現実化し、それらが日々の生活において必要不可欠となっている現代社会。しかし、その様な「情報化社会」が創り出された背景には、「旗振り通信」等における先代方の知恵が生かされた創意工夫や大変な苦勞の存在があり、それらの存在があってこそ現代の情報化社会に繋がっているのだと感心するばかりです。
ところで、今シーズンは暖冬と言われていましたが、予想に反してかなりの雪が積もっています。
滋賀県伊香郡余呉町中河内地区(写真)



●この広報誌「たかとき川」は再生紙を使用しております。

民話 シリーズ⑥ あねがわ いもうとがわ
姉川と妹川

昔々、伊吹山のふもとに二人の可愛い姉妹が暮らしていました。とても仲がよく、何をしても一緒。近所でも評判の姉妹でした。

あるとき毎日雨が続き、人々が困り果てたことがありました。雨は延々と続き、そのうち、伊吹山のおなか膨れ上がって今にも破れそうになってきました。伊吹山は「雨よ、やんでくれ」と悲鳴を上げています。弱り果てて助けを求めているかのような様子でした。

それを聞いた姉妹は大変気の毒になって、伊吹山のおなかの中に飛び込みました。すると驚いたことに、二人は二匹の龍に変身したではありませんか。姉さん龍はすぐふもとへ下り、妹龍は山の北側に回りました。何をしてもいつも一緒だっただけに、妹龍はすぐに姉さん龍が恋しくなり、追い掛けて山のふもとへ戻ってきました。二匹の龍が落ち合った場所、それが今の落合(びわ町)のあたりです。

落ち合った二匹の龍は仲良く一緒に琵琶湖へ向かって川を下り湖の底に沈みました。伊吹山のおなかからこぼれた水は龍と一緒に川を流れて琵琶湖へ注ぎこんだため、おなか破裂することはありませんでした。

そして、姉さん龍の通った川を姉川と呼び、妹龍の通った川を妹川(高時川)と呼ぶようになりました。

(「虎姫のむかし話」より)

俳句/谷口秋翠
雪眩し 湖に 真向う 余呉の村
表紙画/鶴房健蔵(余呉湖・冬)